

教室だより

佐渡市立金井小学校
佐渡ことば・こころの教室
平成22年3月17日
第755号

〒952-1209 佐渡市千種155
Tel: 0259 (63) 4156 (直) 4115 (代) FAX: 4117
<http://www.kanai-es.ed.jp/> E-mail: kanai-es@sado.ed.jp



待っているのではない／準備をしているのだ／飛び立っていくための／…中略…／初めての位置／初めての高さを／こどもたちよ／おそれてはいけない／この世のどんなものもみな／「初めて」から出発するのだから／…後略… 高階紀一さんの『鳥のいる光景』という詩の一部です。今年度のまとめと同時に、新学期への準備を進めていきませんか。

環境を見直す

「まったく。いつも〇〇なんだから。」といった皮肉。「こいつは□□がだめで、困ってるんですよ。」のような謙遜。これらは、言った側の真意はどうあれ、「自分は見限られた」「自分は価値がない」と、言われた子どもを傷付けかねません。また、それを周りで聞いている兄弟姉妹や友達が「あいつは困った奴だ」と、望ましくない見方や、かかわり方をする可能性もあります。意欲をなくした上に責められるような状況では、子どもの行動が改善されることは望めません。

子どもの側に何らかの問題の原因があったとしても、環境の方を見直すことで、ある程度の改善がされます。吃音（どもり）の改善のために、環境調整法という手法が取られます。子どもを変えるのではなく、その子どもを取り巻く環境を変えるという方法です。吃音という個性に直接働き掛けるのではなく、話しやすい環境を整えることをねらうのです。

子どもの身近な環境の代表は保護者や担任です。そんな環境の代表である私たちがほんの少しかかわり方を変えるだけで、よい方向へ事が進むことというのは意外に多いような気がします。まずは、どんな言葉を使っているか見直してみませんか。（中村）



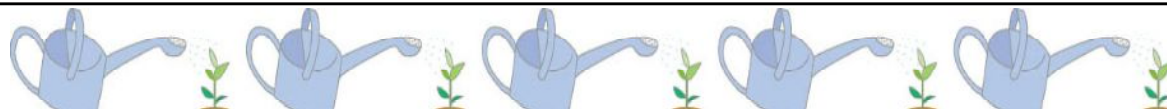
続★叱ってはいけない？

前回、「子どもが失敗した時」は叱ってはいけないと書きました。実は、発達障害の疑いのあるお子さんの場合、生活上の「失敗」がとても多いのです。例えば、テーブルの上を拭くつもりで手を動かしたら、予想以上に手が大きく動いて花瓶を倒してしまった・・・。きっと「どこ見て拭いてるんですか！」と叱ってしまうでしょうが、距離感や身体コントロールの未熟さゆえの失敗なのです。隣の人のテストを見て「30点だね。」と大きな声で言って泣かしてしまった・・・。きっと「人の気持ちも考えなさい！」と叱ってしまうでしょうが、言われた人が傷つくことに考えが至らない特徴ゆえの失敗なのです。このように考えると、「本当に叱るべき時」というのは、実は意外と少ないことに気付くと思います。失敗した時は、どうすれば良かったかを簡潔に教えてください。“物をどかして拭こう”“30 cm ずつ拭こう”“人の点数は言いません”と、やるべきことを具体的に教えると効果的です。

前回も書きましたが、自分と他人の生命にかかわることや、約束やルールをわざと破った時は「本当に叱るべき時」です。迫力のある声で、短く、きっぱりと叱ってあげてください。（香遠）



親の会 コーナー



会員の声 No.33

「成長」 相川 K. M

ことば・こころの教室の存在を知り、我が子がお世話になってから数年たちました。それまでは、学校に対して相談したいことやお話したいことはありましたが、どのように話したらよいのか分からず悩みました。そのような時、この教室で話を聞いてもらい、学校への相談の仕方を一緒に考えて頂きました。お陰様で、親の気持ちが楽になり、子どもに対しての接し方も優しくなり、気持ちが大きくもてるようになりました。また、ある時は勉強の仕方なども教えて頂き助かりました。

成長できた我が子を見るのが、どんなに楽しいことかは、会員の皆様も経験されていますからお分かりのことと思います。この教室に出会えて本当に良かったです。ありがとうございました。



お知らせ



修了者懇話会のお知らせ

今年度の修了者は36名です。お祝い申し上げます。
下記日程で修了者懇話会を行います。

- ◆日時 平成22年3月19日(金)
15:30~16:30
- ◆会場 金井小学校 3階 視聴覚室



※ 修了者の保護者の皆様には案内を送付いたしました。

子育てワンポイントアドバイス

今年度最後のこのコーナーは、教室開設40周年記念講演でお話いただきました、中川信子先生の著書「ことばの遅い子」(ぶどう社)の一節から引用させていただきます。

「小さい頃自閉症かと思われた我が子が今は立派な大学生に。こんなたぐいの話は私の周囲にもごろごろころがっています。小さい頃の変った行動や発達の偏りは、大きくなるにつれて大きく変化してゆく可能性があります。大事なことは、今日明日、この子とどう付き合っただけか、縁あって親子になったふたりがどうやって楽しく暮らしてゆけるかを考えることです。そして『子どもを社会全体の宝物として、みんなで力を合わせて育てるという風潮が広がっていきますように。』」

